

職員の皆さんへ

先人が伝えた季節風の呼び方に「ぼんぎた」というのがありますが、その約束通りの北風が涼しく感じられ、今年もアゴ漁の解禁と共に豊漁の兆しを乗せた秋たけなわの9月となりました。

早速週明け4日から定例市議会が始まります。

市長並びに市議会議員にとっては任期最後の市議会ということで、一般質問でもこの4年間を振り返りながら包括的な議論が待ち受けている筈です。

そしてその中で交わされる議論は、第二次平戸市総合計画にきちんと整理され盛り込んでいくものが多く取り上げられるものと思います。

どうか議員の問いかけや提案にしっかりと向き合い、平戸市の将来像を描く上で重要な論議となるよう真剣にかつ大胆に取り組んでいきましょう。

この総合計画については、平成30年度から向かう10年間を見通す平戸市の最重要計画として位置づけており、将来を描く上で平戸市にとって主要不可欠な羅針盤でもあります。ただし昨今の社会情勢の移り変わりは速く、ほんの数年で様変わりする情報技術や産業分野、そしてこれらに伴う住民の価値観の変遷など、将来予測を見通すことの難しさを実感させられます。

そのような状況の中で、未だ見ぬ現実を計画として描くことは至難の業かもしれません。そしてその計画に基づく事業の実施結果に対する責任を想像する時、ややもすると臆したり躊躇したりすることは誰にでもあることです。

いかに内部で慎重に検討を重ね何度も見直しを繰り返して設定した計画であっても、後になってその「結果との誤差」として指摘を受けた場合を考えると思わず「及び腰」になってしまいがちですが、われわれは決してそんなマイナス心理の洞穴に身を隠してはなりません。

そこで計画遂行にあたって市民の皆さんとの「申し合わせ事項」としての心構えを整理し、その前提条件を共有することで思い切って前に進めるために次の5つの提案をしたいと思います。

「1. 地域力を信じ、誰がやり、誰と組むかを明確にする。」

いくら立派な計画案ができて、実施主体が誰かをあやふやにすると「そのうち誰かがやるだろう」というような他人任せになってしまい、計画そのものが絵に描いたモチになりがちです。組織は必ず予算と制度を設定しますが、これを具体的に実践するのは「人材」であり、パートナーもしくはチームとしての「人脈」です。そして地域の潜在力こそが、計画の実現可能性を高め、必ずやり遂げる底力になるはずです。そこを明確にしていきましょう。

「2. 『現状維持』より『改革と進化』を優先する。」

世の中は刻一刻と変化しています。人口減少の推移を見るだけでもそのことが証明され放置すると萎んでしまいかねません。従って「現状維持」というこ

とは「去年と同じことをする」という意味ではなく、しっかり努力しても「なんとか維持できた」というくらいの難しいハードルかもしれないのです。それならばいっそのこと「現状維持」などという言葉のスローガンにするのではなく、常に「改革と進化」を心に刻み、現状を見直しながら挑戦していく姿勢が重要となります。

### 「3. 『今だけ・ここだけ・自分だけ』からの脱却を図る。」

これは過去に平戸市で講演をしていただいた日本総研の藻谷浩介氏による地方再生およびまちづくりに不可欠なスローガンからの引用です。あらゆる部門において「このくらいでいいや」という安易な妥協こそが閉塞感をもたらすマイナスのスパイラルの始まりとなっていくのですが、それらは全て表記の自己中心的な発想が原因なのです。一方で、成長傾向が見られる事業体の原動力には、将来への希望とあくなき追求や広がっていく勢いが根底にあり、「まだまだいける」というタフな精神力と突破力を持つ繊細な分析や戦略が必ず備わっています。このメンタリティに習っていきましょう。

### 「4. 『8割成功、2割失敗』を許容する。」

人間の成すことに完璧はなく必ずとっていいほどミスや失敗はつきものです。従ってこれを恐れているは何も前に進みません。実行する前から「失敗の責任」を攻められても萎縮するばかりで、それこそ「何もしないほうがまし」という悪弊が頭をもたげてきます。できる限りのリスク回避策を講じ、もしもの時の体制づくりや危機管理を備えることによって、失敗によって生じる損害を最小限に食い止めることを補完すれば、「とにかくやってみよう！」と勇気をもって一歩踏み出すことが重要です。

### 「5. 他人のせいにはしない。反省は次に活かす。」

前項に「失敗を恐れない」という心構えを明記しましたが、大事なことは、そこから得られた教訓を次に活かすことです。これは冒頭に記した「誰がやるか」ということと連動しますが、意外と「みんなでやろう」とすると失敗した時に「誰かのせい」にしたくなる傾向が生じます。責任の所在を明確にし、積極姿勢で物事に取り組むことが重要です。最終責任は市長が負います。

そしてしっかりと反省をすれば、失敗せずに成し遂げたことよりもっと大事なことに気づくこともあるはずです。

以上申し上げた5つの心構えを「計画遂行の心得五箇条」と位置づけ、議会や市民の皆さんと共有することができれば、もっと思い切った施策展開ができるのではないのでしょうか。過去の10年間よりもっと素晴らしい躍動感溢れるこれからの10年間をプロデュースするためにも、この提案を第二次総合計画の冒頭に刻みたいと思っています。

それから9月定例会市議会の後半では、平成28年度決算に対する審議が行なわれます。昨年は熊本地震などの影響によって実績数値が思うように伸びなかった部門もありますが、一方で基幹産業である農林水産分野は確かな手応えが感じられた一年でした。それぞれ実施した事業内容と費用対効果などを次の施策に反映できるよう説明責任をしっかりと果たしていただきたいと思います。

さて7月から8月にかけて市内の7地区で市政懇談会を開催しましたが、たくさんのご意見やご提言をいただきました。まだまだ課題は山積していますが、こうした住民の皆様のニーズに応えるためにも、まずは健康が第一です。

そして職場環境を是正・改善し続けるための信頼関係をしっかりと築いていただきたいと思います。そのことが自分自身を磨き価値を高め、それがひいては市民皆様のより深い理解と協力を得られることとなり、市民協働の原点を導き出すことになるものと思います。

引き続き職員皆様のご努力に期待します。

平成29年9月1日

平戸市長 黒田成彦